

住友生命健康財団

2013年度 スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

選考結果のご報告

2013年10月

公益財団法人 住友生命健康財団

2013年度 選後総評

選考委員長 小野 喬

はじめに

本プログラムは、住友生命健康財団の設立25周年を記念して、日本社会に適したコミュニティスポーツの意義と役割を調査・研究により明らかにし、コミュニティスポーツの実践を広めることを目的として、2010年に創設された。

4年目を迎えた本年も、全国から多数の応募があり、調査・研究助成（新規）の応募倍率は12.5倍、実践助成（新規）は9.7倍と、昨年以上に狭き門となった。

調査・研究助成（新規・継続）および実践助成（新規・継続）の選考は、研究者3名、実践者（財団評議員）1名、NPO支援センター1名、財団常務理事1名、計6名で実施した。また、調査・研究助成（新規）、実践助成（新規）については、応募多数のため、研究者1名、協力NPO（プログラム・オフィサー）1名、財団職員1名、計3名で予備選考を実施した。

なお、本プログラムの企画・運営は市民社会創造ファンドの協力を得て実施した。

以下、応募状況、選考プロセス、選考結果についてご報告する。

応募状況について

A 調査・研究助成

新規助成は4回目の募集となるが、応募総数は75件（昨年比+5）であった。地域別では、関東が42.7%（昨年比+12.7）、近畿が25.3%（同+2.4）と、全体の7割弱を占めた。課題別では、①コミュニティスポーツの開発と実践手法に関する課題18.7%（昨年比+3.0）、②コミュニティスポーツへの参加促進と支援方策に関する課題22.7%（同-4.4）、③コミュニティスポーツの健康への影響評価に関する課題26.7%（同+3.8）、④コミュニティスポーツの普及に関する課題10.7%（同+0.7）、⑤コミュニティスポーツの社会基盤構築に関する課題12.0%（同-3.7）を占めた。応募者の属性では、個人が45.3%（昨年比-6.1）、組織が54.7%（同+6.1）であった。

継続助成は3回目の募集となるが、応募数は5件であった。

B 実践助成

新規助成は3回目の募集となるが、応募総数は107件（昨年比+21）であった。北海道から沖縄まで全国から応募があり、その内、関東が32.7%（昨年比+7.1）、近畿が14.0%（同-10.4）と、全体の5割弱を占めた。課題別では、①三世代型コミュニティスポーツの実践20.6%（昨年比-6.1）、②参加型コミュニティスポーツの実践29.0%（同+3.4）、③地域活性化型コミュニティスポーツの実践22.4%（同-0.9）、④新しいコミュニティスポーツの開発と普及11.2%（同+3.1）を占めた。法人形態別では、任意団体が42.1%（昨年比-11.4）、NPO法人が47.7%（同+9.3）であった。

継続（2年目）助成は2回目の募集となり、継続（3年目）助成は初めての募集となった。応募総数は15件、その内、助成2年目への応募は9件、同3年目への応募は6件あった。

選考プロセスについて

A 調査・研究助成

新規助成は予備選考を実施した。全ての応募案件について「本プログラムの趣旨への適合性」「調査・研究への適合性」の観点から書類審査（ABC評価）を行い、6月14日の予備選考委員会で評価結果をもとに議論し、75件から34件を本選考対象に選出した。

本選考では、新規助成について「独創性」「専門性」「実現性」「社会貢献性」「民間性」の5つの観点から書類審査を行い、各選考委員が34件の中から「推薦：4件」「準推薦：1件」をそれぞれ選出した。継続助成については応募5件について「助成1年目の進捗状況」「目標の達成度」「助成2年目の企画の発展性」「実現性」「実践活動への波及性」の5つの観点から書類審査（ABC評価）を実施した。

7月10日に本選考委員会を開催し、新規助成では選考委員から推薦が上がった18件について、各委員が推薦する理由（もしくは推薦しない理由）を述べ、特に「研究テーマが新しく、コミュニティスポーツの可能性を切り拓くもの」「行政系資金が得られ難く、国や行政の考えに縛られないもの」「コミュニティに直接関与し、コミュニティの健康課題の解決に資する実践を伴った調査・研究」について重点的に議論を行い、8件が助成候補となった。

継続助成は前年度の助成期間半ばでの応募であったため、1年目の実績と2年目の研究企画への評価作業は大変難しいものとなった。審議の結果、助成件数：3件、助成総額：317万円が決定した。谷口氏（大分大学）は1年目の研究が着実に実施され、2年目で更なる研究内容の深堀と成果が期待された。片山氏（四国学院大学）は地域と丁寧に関係を構築しながら研究活動が進められている点が評価された。モンキーマジックは社会的意義の高い研究テーマであるが、研究成果が明らかとなるよう研究スキームの再検討が必要と判断された。

新規助成については、本選考委員会で助成候補となった8件に対して事務局がインタビュー調査を実施し、8月28日の委員長決裁会合にて、助成件数：7件、助成総額：1,076万円（内、1件は復興支援特別助成）が決定した。

B 実践助成

新規助成は予備選考を実施した。全ての応募案件について「本プログラムの趣旨への適合性」「実践プロジェクトに相応しいもの」の観点から書類審査（ABC評価）を行い、6月14日の予備選考委員会で評価結果をもとに議論し、107件から34件を本選考対象に選出した。

本選考では、新規助成について「独創性」「協働性」「実現性」「社会貢献性」「民間性」の観点から書類審査を行い、各選考委員が34件の中から「推薦：5件」「準推薦：1件」をそれぞれ選出した。継続（2年目）助成は応募9件について「1年目の進捗状況」「目標の達成度」「2年目の企画の発展性」「計画性」の観点から書類審査（ABC評価）を実施した。継続（3年目）助成は応募6件について「2年目の進捗状況」「目標の達成度」「3年目の企画の発展性」「計画性」「助成後の自立性」の観点から書類審査（ABC評価）を実施した。

7月10日に本選考委員会を開催し、新規助成では選考委員から推薦が上がった18件について、各委員が推薦する理由（もしくは推薦しない理由）を述べ、地域やテーマに偏りが出ないように考慮して選考を行った。

継続助成では特にプロジェクトの進捗が遅れている案件や、企画内容に発展があまり感じられない案件は低い評価となった。

選考の結果、新規助成は助成件数：12件、助成総額：576万円（内、1件は復興支援特別助成）、継続（2年目）助成は助成件数：6件、助成総額：290万円（内、1件は復興支援特別助成）、継続（3年目）助成は助成件数：6件、助成総額：299万円（内、1件は復興支援特別助成）が決定した。

選考結果について

調査・研究助成の新規プロジェクトでは、「地域スポーツクラブによる大学・地域・学生の共存を目指した実践研究」「更生とコミュニティスポーツの関係を探る調査研究」「スポーツ婚活による新たなスポーツの価値を探る調査研究」「自閉症スペクトラムのある児童のためのスポーツワークショップとコミュニティ形成のためのプログラム開発に係る研究」「子どもの運動・スポーツに対して親がサポートしやすい生活環境を探る調査研究」「コミュニティスポーツによる育児経験を活かした人財育成プログラムの開発と実践研究」「被災児童に対するウォーターワイズプログラム構築に関する実践研究」の7件（内、1件は復興支援特別助成）が採択された。

継続プロジェクトでは、「健康運動コミュニティ活動の継続的運営に関する実践研究」「クライミングプログラムが中高年視覚障がい者のQOL向上に与える効果に関する実践研究」「コミュニティスポーツによる脱“縦割り行政”機構の可能性に関する調査研究」の3本が採択された。調査・研究の成果を積極的に社会に発信し、実践活動に還元されるよう期待したい。なお次年度はコミュニティスポーツの社会的価値や役割に関する理論研究や、今後の日本のコミュニティスポーツのあり様を探る総合的・横断的な研究や提案も期待したい。

実践助成で採択されたプロジェクトは、コミュニティ（地域）の中でコミュニティ（仲間）を創りながら、スポーツ（身体活動）を通じた健康づくり・人づくり・地域づくりが企画されており、全国各地で「市民の市民による市民のためのコミュニティスポーツ」が市民の暮らしに織り込む形で実践されている。

実践助成は今回初めて3年目のプロジェクト6件（内、1件は復興支援特別助成）が採択された。応募が6件であったことから全てが採択されたことになる。継続的に実践を積み重ねることで、活動に広がりや深まりが見られる。今後の自立的な活動に向けた工夫も期待したい。

本年も調査・研究助成、実践助成の中から、東日本大震災復興支援特別助成として、助成件数：4件、助成総額：385万円が決定した。震災後2年半が経過し、震災の風化が不安視される中、コミュニティスポーツによる長期的な展望を持った被災者の生活再建支援となるよう期待したい。

最後に

2013年9月7日（日本時間8日）、ブエノスアイレスの国際オリンピック委員会総会で2020年東京オリンピックの開催が決定した。これから世界中が日本に注目し、世界のトップアスリーの姿を間近に感じる貴重な機会となり、スポーツによる世界との交流も活発に行われるだろう。

日本のスポーツ振興には、トップスポーツとコミュニティスポーツが両輪となり、発展させることが必要不可欠である。特にコミュニティスポーツの発展には、地域スポーツクラブの果たす役割が決定的に重要となろう。しかし、日本のコミュニティスポーツ、地域スポーツクラブの社会基盤はまだまだ脆弱である。今一度、日本のコミュニティスポーツの現状を冷静に見つめ、今後のあり様を真剣に考える必要があるだろう。その意味で本プログラムが果たす役割が益々期待される。

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム
2013年度 助成対象プロジェクト一覧

A. 調査・研究助成 新規 [助成件数：6件、合計金額：8,400,000円]

* 個人研究

プロジェクト名	コミュニティスポーツによる「大学」「地域」「学生」の共存 ー学生主体の新しい運営システムで希薄化した“大学”と“地域”を再びつなげるー		
代表者	東海大学地域スポーツクラブ 東海大学体育学部 准教授 伊藤 栄治		
所在地	神奈川県平塚市	助成金額	1,500,000 円
プロジェクト名	更生とコミュニティスポーツの関係調査について		
代表者	被害者と司法を考える会 代表 片山 徒有		
所在地	東京都台東区	助成金額	500,000 円
プロジェクト名	スポーツ婚活参加者によるスポーツ価値とイベント評価に関する研究		
代表者	大阪国際大学人間科学部スポーツ行動学科地域スポーツ研究室 教授 高見 彰		
所在地	大阪府守口市	助成金額	800,000 円
プロジェクト名	自閉症スペクトラムのある児童のためのスポーツワークショップの開発とスポーツワーク ショップを通じたコミュニティ形成のためのプログラム開発		
代表者	金沢大学子どものこころの発達研究センター 特任助教 竹内 慶至*		
所在地	石川県金沢市	助成金額	1,100,000 円
プロジェクト名	子どもの運動・スポーツに対して親がサポートしやすい生活環境とは？ ～妊婦を対象とした個人・家庭・地域レベルからのアプローチ～		
代表者	東北大学大学院医工学研究科 教授 永富 良一*		
所在地	宮城県仙台市	助成金額	2,000,000 円
プロジェクト名	コミュニティスポーツによる育児経験を活かした人財育成プログラム開発と実践研究 ～足立区の認証保育所における取り組みを通して～		
代表者	帝京平成大学 教授 望月 明人*		
所在地	千葉県市原市	助成金額	2,500,000 円

B. 調査・研究助成 継続 [助成件数：3件、合計金額：3,170,000円]

* 個人研究

プロジェクト名	健康運動コミュニティ活動の継続的運営に関する研究 ～住民が楽しみながら主体的に創り上げる健康教室運営のプログラム開発～		
代表者	四国学院大学社会学部 准教授 片山 昭彦*		
所在地	香川県善通寺市	助成金額	570,000 円
プロジェクト名	コミュニティスポーツとしての中高年視覚障がい者を対象としたクライミングプログラム がQOL向上に与える効果の調査研究 ～セラピューティックレクリエーション的アプローチを取り入れた試みの展開を目指して～		
代表者	特定非営利活動法人モンキーマジック 代表理事 小林 幸一郎		
所在地	東京都武蔵野市	助成金額	1,500,000 円
プロジェクト名	コミュニティスポーツによる脱“縦割り行政”機構の可能性に関する調査研究 ー総合型クラブによる行政との協働関係構築事例に着目してー		
代表者	大分大学教育福祉科学部 教授 谷口 勇一*		
所在地	大分県大分市	助成金額	1,100,000 円

C. 実践助成 新規 [助成件数：11件、合計金額：5,270,000円]

プロジェクト名	発達障がい児のコミュニティスポーツクリニックプロジェクト		
代表者	総合型地域スポーツクラブ HEROES クラブ代表 井之上 千秋		
所在地	福岡県福岡市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	Nature - Trail Run & Swim		
代表者	都会と田舎を結ぶ食育ネット 代表 小田 清隆		
所在地	愛媛県喜多郡内子町	助成金額	500,000円
プロジェクト名	海を歩こう 人間の力で。子供と海の絆		
代表者	サーフガード波守 代表 木村 陽二		
所在地	沖縄県島尻郡久米島町	助成金額	470,000円
プロジェクト名	がんを経験した女性のための心とからだのケアプロジェクト		
代表者	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 理事長 合田 加奈子		
所在地	神奈川県横浜市	助成金額	490,000円
プロジェクト名	森・里山のスポーツ・楽しみ普及事業		
代表者	特定非営利活動法人落倉バックカントリーフィールド 理事長 高橋 誠		
所在地	長野県北安曇郡白馬村	助成金額	490,000円
プロジェクト名	放課後スポーツ教室の推進により子どもの体力の向上及び異年齢子ども集団の形成		
代表者	特定非営利活動法人横浜かもめanimaクラブ 理事長 堤 文治		
所在地	神奈川県横浜市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	自閉症児・発達障がい児のための水泳教室		
代表者	特定非営利活動法人岡山県自閉症児を育てる会 代表理事 鳥羽 美智代		
所在地	岡山県赤磐市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	子供の居場所作りと地域とのコミュニティ形成事業		
代表者	特定非営利活動法人木曾川文化・スポーツクラブ 理事長 日比野 隆夫		
所在地	愛知県一宮市	助成金額	320,000円
プロジェクト名	日本で最も美しい村連合サイクリング交流プロジェクト		
代表者	特定非営利活動法人花サイクルクラブ 理事長 山口 敏郎		
所在地	北海道札幌市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	とちぎヤングスポーツフェスティバル		
代表者	特定非営利活動法人とちぎユースワークカレッジ 理事長 横松 陽子		
所在地	栃木県宇都宮市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	誰もが楽しめるコミュニティスポーツとしての“ユニバーサル三角ベース”開発プロジェクト		
代表者	特定非営利活動法人ジャパンユニバーサルスポーツ・ネットワーク 理事長 李 節子		
所在地	東京都大田区	助成金額	500,000円

D. 実践助成 継続(2年目) [助成件数：5件、合計金額：2,400,000円]

プロジェクト名	鬼首地区の活性化に向けたスナッグゴルフの普及と定着を目指して		
代表者	鬼首地域づくり委員会 委員長 大場 雅之		
所在地	宮城県大崎市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	視覚障がい者が身近にスポーツが出来るコミュニティづくり		
代表者	兵庫県視覚障害者スポーツ連盟 理事長 川久保 栄		
所在地	兵庫県神戸市	助成金額	400,000円
プロジェクト名	地域からグローバルまで。創造性あふれるストリートカルチャーのコミュニティプロジェクト『RAW SKOOL』		
代表者	特定非営利活動法人 Street Culture Rights 代表理事 小林 資隆		
所在地	東京都杉並区	助成金額	500,000円
プロジェクト名	黒潮の海で心も体も元気になる海洋家族スポーツプロジェクト		
代表者	特定非営利活動法人オーシャンゲート ジャパン 代表 白杉 芳彦		
所在地	大阪府大阪市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	乗馬を通じた障がい者と市民との地域共生・絆事業		
代表者	東京障害者乗馬協会 会長 渡辺 廣人		
所在地	東京都東村山市	助成金額	500,000円

E. 実践助成 継続(3年目) [助成件数：5件、合計金額：2,490,000円]

プロジェクト名	トレイル・オリエンテーリング普及事業		
代表者	特定非営利活動法人トレイル・オリエンテーリング協会 会長 櫻内 保幹		
所在地	埼玉県入間市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	D oスポーツ！フロアホッケーでインクルージョン社会創出事業		
代表者	長野県フロアホッケー連盟 会長 関 隆教		
所在地	長野県長野市	助成金額	490,000円
プロジェクト名	焼津フットサルクラブ『けるけるクラブ』		
代表者	特定非営利活動法人生きる生きる 代表理事 手塚 恵美子		
所在地	静岡県焼津市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	上天草「元気発進！」プロジェクト		
代表者	特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネット 理事長 中川 保敬		
所在地	熊本県熊本市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	「ひきこもり」「不登校」「ニート」「障がい児・者」「高齢者」など日常的にスポーツの場から遠ざかっている市民と学生(中・高・大学生)・市民ボランティアのコラボレーションでトリプルバドミントンという町づくりにつなげるコミュニティスポーツ開発プロジェクト。		
代表者	みんなでつくる学校とれぶりんか 代表 中川 雄二		
所在地	大阪府枚方市	助成金額	500,000円

F. 東日本大震災復興支援特別助成 [助成件数：4件、合計金額：3,850,000円]

* 個人研究

プロジェクト名	被災児童に対するウォーターワイズプログラム構築に関する調査・研究 (調査・研究 新規)		
代表者	石巻専修大学 准教授 山内 武巳*		
所在地	宮城県石巻市	助成金額	2,360,000 円
プロジェクト名	ニュースポーツによる交流活動を通じた被災住民の健康維持及びコミュニティの形成と地域活性化 (実践 新規)		
代表者	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター 代表理事 谷山 博史		
所在地	東京都台東区	助成金額	490,000 円
プロジェクト名	いしのまきテイクテン！プロジェクト (実践 継続2年目)		
代表者	特定非営利活動法人国際生命科学研究機構 理事長 西山 徹		
所在地	東京都千代田区	助成金額	500,000 円
プロジェクト名	スポーツ・健康づくり運動を通じた地域復興支援プロジェクトⅢ (実践 継続3年目)		
代表者	公益財団法人健康・体力づくり事業財団 理事長 下光 輝一		
所在地	東京都港区	助成金額	500,000 円

○ 2013 年度選考体制

選考委員長	小野 喬	日本スポーツクラブ協会 相談役、住友生命健康財団 評議員
選考委員	稲山 貴代	首都大学東京 大学院 人間健康科学研究科 准教授
選考委員	中村 好男	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
選考委員	福岡 孝純	日本女子体育大学 招聘教授
選考委員	水谷 綾	大阪ボランティア協会 事務局長
選考委員	佐藤 昭雄	住友生命健康財団 常務理事・事務局長
予備選考委員	谷本 都栄	帝京大学沖永総合研究所 助教
予備選考委員	坂本 憲治	市民社会創造ファンド プログラム・オフィサー
予備選考委員	澤 春生	住友生命保険相互会社 ブランドコミュニケーション部 上席部長代理 兼 住友生命健康財団 事務局担当部長

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム
2013年度 調査・研究助成 推薦理由

A. 調査・研究助成 新規

プロジェクト名 : コミュニティスポーツによる「大学」「地域」「学生」の共存 ―学生主体の新しい運営システムで希薄化した“大学”と“地域”を再びつなげる―

代表者名 : 東海大学地域スポーツクラブ 東海大学体育学部 准教授 伊藤栄治

<推薦理由>

「大学」「地域」「学生」が三位一体となった地域住民のスポーツコミュニティの創出については、すでに複数の先行事例があるものの、学生主体の地域スポーツクラブの運営システムの構築は、地域における社会資源としての大学の価値をさらに高めることに貢献しうる可能性がある。異キャンパスの医学部、健康科学部との連携も予定されており、総合大学らしい大規模なプロジェクトとなろう。

実践フィールドも確保されており、実施スケジュールも明確で、確実な結果が得られると考える。実践的な取り組みを、研究課題としてどのような成果に集約するのか、期待したい。

* * *

プロジェクト名 : 更生とコミュニティスポーツの関係調査について

代表者名 : 被害者と司法を考える会 代表 片山徒有

<推薦理由>

なかなか社会の中で見えにくい、刑事・矯正施設での受刑者の生活や、彼らの更生過程の場を一つのコミュニティとして、そこにおけるスポーツが彼らの更生にいかにか寄与しているかを探ろうという大変チャレンジングな試みである。本調査を実行する上で、各施設の協力・理解など相当の調整を要する。また、申請書の内容からは、具体的な調査対象や協働パートナーが押さえられた調査プランとは言いがたく、海外調査についても同様のことが言える。今後は、調査における有効性と事前調整をもう少し緻密に積み上げていただき、この調査の必要性を強く訴えかけていただけると良いだろう。

* * *

プロジェクト名 : スポーツ婚活参加者によるスポーツ価値とイベント評価に関する研究

代表者名 : 大阪国際大学人間科学部スポーツ行動学科地域スポーツ研究室
教授 高見彰

<推薦理由>

30代前半の男性約5割、女性約3割が未婚である昨今、就職活動と同じく幅広い情報の入手や交流によって理想の結婚相手を見つけようとする試み(いわゆる「婚活」)が盛んに行われている。中には、「スポーツ実践」や「スポーツ観戦」を中心とした婚活プログラムの事例もあるが、ど

のようなスポーツが婚活に適しているのか、あるいは他の婚活と比較したスポーツ婚活の特徴が検証されたことはない。本プロジェクトでは上記の観点から、スポーツ婚活参加者への調査を通じて、スポーツの新しい社会的価値を発見し、スポーツ婚活のモデルプログラムを開発しようとしている。

「婚活」という新たな観点からのスポーツの価値の開発だけでなく、少子化の解決にも資する取り組みとして期待される。

* * *

プロジェクト名 : 自閉症スペクトラムのある児童のためのスポーツワークショップの開発とスポーツワークショップを通じたコミュニティ形成のためのプログラム開発

代表者名 : 金沢大学子どもこころの発達研究センター 特任助教 竹内慶至

<推薦理由>

スポーツワークショップをとおして自閉症の児童の社会スキル獲得をめざした企画で、社会的な支援が十分でない人たちを対象とした、意義のある研究である。実践フィールドとして、すでに積極的な活動歴をもつNPO法人が運営するプログラムを活用することで、既存の社会スキル育成プログラムにスポーツが加わることの効果を検証することが可能となる。

専門性に裏付けられた構想／研究計画と言えよう。目的、目標が大きく概念的であるため、具体的な成果のイメージがつかみにくい、「コミュニティ形成のための市民、市政、大学の基盤形成」が実現できれば、その社会還元、波及効果は極めて大きいものになると期待される。

* * *

プロジェクト名 : 子どもの運動・スポーツに対して親がサポートしやすい生活環境とは？
～妊婦を対象とした個人・家庭・地域レベルからのアプローチ～

代表者名 : 東北大学大学院医工学研究科 教授 永富良一

<推薦理由>

子どもの体力低下および運動不足が問題となっている中、子どもの運動量の維持向上のためには、家庭において保護者が積極的に子どもの運動やスポーツに対して支援することが重要とされている。本プロジェクトでは、出産後18か月の母親を対象として、妊娠時から出産後までの身体活動の状況ならびに子どもへの働きかけ（環境）を調査することで、妊婦の身体活動量の決定要因ならびに子どもへの運動サポートを可能とする生活環境について、個人・家庭・地域レベルで明らかにすることを目的としている。本プロジェクトによって、「子育てに優しいコミュニティ」の構築が期待される。

* * *

プロジェクト名 : コミュニティスポーツによる育児経験を活かした人財育成プログラム開発と実践研究 ～足立区の認証保育所における取り組みを通して～

代表者名 : 帝京平成大学 教授 望月明人

<推薦理由>

私たちを取巻く、生活環境・社会環境が激変する中、東京都内における認証保育所への期待が拡大してきている一方、都市型の課題として十分な園庭・ホールを備えることが出来ず、その結果、運動不足が問題という偏見・風評が指摘されている。

本プロジェクトは、認証保育所においてコミュニティスポーツを通じ、幼児の健康と体力の向上を図り、「認証保育所＝運動不足」という偏見を解消し、「女性の活動現場の拡充⇒雇用の創出」につなげるという、大きな社会課題に対する実践的研究であり、今後の認証保育所の方向性に一石を投じる研究成果に結実することを期待したい。

* * *

プロジェクト名 : 被災児童に対するウォーターウィズプログラム構築に関する調査・研究
(復興支援特別助成)

代表者名 : 石巻専修大学 准教授 山内武巳

<推薦理由>

スポーツはその保有している特性により、自己解放・自己制御・自己実現等の要素を行動におけるかたり(思考)と振り(動作・演技)の一致の中で自然に行い、知らずしらずのうちにセルフコントロールからセルフリアライゼーションを可能にし、結果的に当事者に自信(セルフ・コンフィデンス)をもたらす。

本プロジェクトの立案者はこれらに対し、深い理解を有した上でプログラムを構築している。どちらかという知識教育であるカリキュラーワーク優位の我が国であるが、このようにライブな被害を受けた所の人こそライブな活動により自らを励まし、自信を持たせていくことが必要なのである。研究計画は過不足なく、適切に構築されており、本プログラムの趣旨に合致するので推薦する次第である。

B. 調査・研究助成 継続

プロジェクト名 : 健康運動コミュニティ活動の継続的運営に関する研究
～住民が楽しみながら主体的に創り上げる健康教室運営のプログラム開発～

代表者名 : 四国学院大学社会学部 准教授 片山昭彦

<推薦理由>

特定健康診査・特定保健指導が、生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果に繋がることは、明らかになっていることである。そして、保健指導終了後もその習慣を維持・発展させていくことも重要な課題である。本研究テーマは、この課題解決をコミュニティの中の自主運営組織として、継続的運営にいかにか結び付けて行けるかというものであり、その為に「自主運営コミュニティの発足から発展的な継続」に関するプロセスを明確にするものである。

継続応募では、この問題に対する課題解決策を更に飛躍させ、参加者・参加者以外の地域住民・行政の三者間の関係性においても調査・研究を実施することにより、継続的運営を定着・発展さ

せることを期待したい。

* * *

プロジェクト名 : コミュニティスポーツとしての中高年視覚障がい者を対象としたクライミングプログラムがQOL向上に与える効果の調査研究 ～セラピューティックレクリエーション的アプローチを取り入れた試みの展開を目指して～

代表者名 : 特定非営利活動法人モンキーマジック 代表理事 小林幸一郎

<推薦理由>

中高年の視覚障がい者に対して、フリークライミングという手法で自己肯定感や自尊心を高めようとする試みに着目し、昨年度から生活の質の向上を視座に入れ、調査研究に取り組んだ。そういった実践の中で、クライミングプログラムの効果が徐々に可視化されてきている点は今後も期待したい点である。

今年度は特に自己効力感の低い方を対象に行っていく方向性が出されているので、この視点をしっかり押さえながら、最終的に中途障害の方がスポーツを通じていかに障害を克服し、自分らしさの確立と自信の獲得がなされるのか、しっかりと検証いただきたい。また、前回の採択時にも指摘したが、当事者を支える人や周囲の変化、そして、当事者とまわりの関わりによる効果までが研究範囲に考慮いただけたらと思う。

* * *

プロジェクト名 : コミュニティスポーツによる脱“縦割り行政”機構の可能性に関する調査研究 —総合型クラブによる行政との協働関係構築事例に着目して—

代表者名 : 大分大学教育福祉科学部 教授 谷口勇一

<推薦理由>

スポーツは“結びつけ命を与える”ものである。人間はひとりでは生きていられない。環境（社会）とよき関係性（間柄）が必須である。それにはワン・フォア・オール、オール・フォア・ワンのような自律と連帯の理想が必須である。また、健康が全てではないが健康でなければ全てが立ち行かない。健康は自律、自助のもとスポーツ（運動・栄養・休養）のバランスのとれた生活様式によりQOLの確保が必須だ。

本プロジェクトの優れた点は、第一にコミュニティスポーツはスポーツクラブでという哲学がはっきり理解されているということ、第二に主体者は市民であり、市民の市民による市民の為の活動であるということが周知されていることである。このような理想を常に確認しながらオーソドックスに研究を進めていることにより、住民本位をどう創り出していくかという方向性が伺えたので推薦した次第である。

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム
2013年度 実践助成 プロジェクト概要

<新規助成>

プロジェクト名	発達障がい児のコミュニティスポーツクリニックプロジェクト
団 体 名	総合型地域スポーツクラブ HEROES
実 践 概 要	身体活動の機会が少ない発達障がい児の健全な発育と、発達障がい児をめぐる様々な課題の解決を目的に、専門家によるコーディネイティブ運動を取り入れたレクリエーション（遊び）に取り組む。

プロジェクト名	Nature - Trail Run & Swim
団 体 名	都会と田舎を結ぶ食育ネット
実 践 概 要	自然豊かな愛媛県南予地域において、これまで同団体が実施してきた「食育」の体験活動をベースに、自然と親しみ世代間交流をはかるトレイルスポーツに取り組む。

プロジェクト名	海を歩こう 人間の力で。子供と海の絆
団 体 名	サーフガード波守
実 践 概 要	沖縄県において、綺麗な海に囲まれているにもかかわらず海とは無縁に生活している子どもたちや保護者に対し、海に親しみを持ってもらい、また危険回避やその対処方法について学んでもらう事を目的に、海でのスタンドアップパドルボードを活用した体験事業を実施する。

プロジェクト名	がんを経験した女性のための心とからだのケアプロジェクト
団 体 名	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会
実 践 概 要	乳がん、婦人科系がんの手術後、後遺症や再発の不安をかかえて孤立しがちな女性たちに対し、「女性のがん手術後のリハビリ体操」を実施し、心身のリハビリテーションを行うとともに、仲間と出会い思いを分かち合う機会を創出する。

プロジェクト名	森・里山のスポーツ・楽しみ普及事業
団 体 名	特定非営利活動法人落倉バックカントリーフィールド
実 践 概 要	長野県北安曇郡白馬村において、スポーツの提供や指導員の養成事業を通じて、地域の新たな楽しみ方を提案し、里山スポーツのメッカを目指しながら、若者が定着する地域づくりに取り組む。

プロジェクト名	ニュースポーツによる交流活動を通じた被災住民の健康維持及びコミュニティの形成と地域活性化（復興支援特別助成）
団 体 名	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター
実 践 概 要	宮城県気仙沼市の鹿折地区 8ヶ所の仮設住宅と近隣の住民に対して、ニュースポーツによる交流活動を行い、ニュースポーツの普及とともに、住民の心身の健康促進、生活不活発病の予防を目指す。

プロジェクト名	放課後スポーツ教室の推進により子どもの体力の向上及び異年齢子ども集団の形成
団 体 名	特定非営利活動法人横浜かもめ anima クラブ
実 践 概 要	1980年代半ばをピークに子どもたちの体力の低下が下降線をたどる中、放課後の時間を使って子どもたちに身体を動かす楽しみを感じてもらおうプログラムを地域を巻き込みながら実施し、子どもの体力低下の抑制を目指す。

プロジェクト名	自閉症児・発達障がい児のための水泳教室
団 体 名	特定非営利活動法人岡山県自閉症児を育てる会
実 践 概 要	自閉症児・発達障がい児たちの障がい特性に配慮した指導と、安心した環境のもと水泳教室を実施し、水泳技能の向上とともに社会性の醸成を目指す。

プロジェクト名	子供の居場所作りと地域とのコミュニティ形成事業
団 体 名	特定非営利活動法人木曾川文化・スポーツクラブ
実 践 概 要	地域の子どもたちの課外活動の一環として、日頃の学校生活では学べない体験プログラムを、小学校を拠点として実施し、多世代との交流を深めるとともに地域コミュニティに根ざした子どもの居場所づくりを行う。

プロジェクト名	日本で最も美しい村連合サイクリング交流プロジェクト
団 体 名	特定非営利活動法人花サイクルクラブ
実 践 概 要	サイクリングをコミュニティスポーツとして捉え、初心者や女性に配慮し、自然の享受、地域の人たちとの交流、趣味の共有など、サイクリングを実践する上でのプロセスの共有を目的とした取り組みを行う。

プロジェクト名	とちぎヤングスポーツフェスティバル
団 体 名	特定非営利活動法人とちぎユースワークカレッジ
実 践 概 要	栃木県内において、ひきこもり、ニートの若者の社会参画を目的に、人間関係の不安の解消と体力づくりのきっかけとなる体育祭や球技大会を実施する。また、若者自身がイベントの運営を担うことにより彼ら自身の成長の場を提供する。

プロジェクト名	誰もが楽しめるコミュニティスポーツとしての“ユニバーサル三角ベース”開発プロジェクト
団 体 名	特定非営利活動法人ジャパンユニバーサルスポーツ・ネットワーク
実 践 概 要	年齢・性別・国籍・心身の状況を問わず取り組めるスポーツを「ユニバーサルスポーツ」と位置づけ、小さいスペースや屋内でも実施可能な「ユニバーサル三角ベース」の実践を通して、新たなユニバーサルスポーツの開発に取り組む。

<継続助成2年目>

プロジェクト名	鬼首地区の活性化に向けたスナッグゴルフの普及と定着を目指して
団 体 名	鬼首地域づくり委員会
実 践 概 要	助成1年目は、鬼首地区公民館事業の新たなスポーツレクリエーション部門の柱の一つに、スナッグゴルフを据え、地元鬼首小学校への活動支援や、地区民が楽しく集える交流活動を進めながら、一人ひとりの健康の保持増進を図るとともに、鬼首地区の活性化へとつなぐ活動を行った。 助成2年目は、この活動をさらに充実させ、温泉協会やダム管理所の協力を得ながら講座や大会を実施し、スナッグゴルフの普及を目指す。

プロジェクト名	視覚障がい者が身近にスポーツが出来るコミュニティづくり
団 体 名	兵庫県視覚障害者スポーツ連盟
実 践 概 要	助成1年目は、一人でも多くの視覚障がい児・者が運動・スポーツを楽しむことができるよう、啓発活動や指導者・審判員の育成、講習会の開催を通じて、障害理解を促進し、誰もが自由に充実したスポーツ活動ができる環境や地域で支え合う仕組みづくりに向けて取り組んだ。 助成2年目は、地域で暮らす視覚障がい児・者が身近な場所で気軽にスポーツを楽しむことができる拠点をつくとともに、スポーツを支える人たちが支え合いながらスポーツが出来る環境づくりを目指す。

プロジェクト名	地域からグローバルまで。創造性あふれるストリートカルチャーのコミュニティプロジェクト『RAW SKOOL』
団 体 名	特定非営利活動法人 Street Culture Rights
実 践 概 要	助成1年目は、青少年が前向きな生き方を選択する動機付けを与えるとともに、よりクリエイティブでポジティブなコミュニティを創出するため、ストリートダンスやストリートバスケットなどのトップダンサー、トッププレイヤーによる無料のオープンワークショップを開催した。 助成2年目は、引き続きオープンワークショップを実施するとともに、学校や施設への出張ワークショップを新たに行う。

プロジェクト名	黒潮の海で心も体も元気になる海洋家族スポーツプロジェクト
団 体 名	特定非営利活動法人オーシャンゲート ジャパン
実 践 概 要	助成1年目は、和歌山県白崎海洋公園において、様々な状況や環境のなかで苦心している親子を迎えて、笑顔と元気を回復するための海洋体験を実施した。 助成2年目は、心のケアやリハビリにも力を入れ、リラクゼーションと呼吸法を学びながら心身が元気になるきっかけを作ることにより、子どもたちの生きる力を育む。

プロジェクト名	いしのまきテイクテン！プロジェクト（復興支援特別助成）
団 体 名	特定非営利活動法人国際生命科学研究機構
実 践 概 要	助成1年目は、石巻市の北上地区を中心に、元気で長生きのための運動と栄養の複合プログラム「テイクテン」を用いて仮設住宅の住民の健康維持活動を通じたコミュニティづくりに取り組んだ。 助成2年目は、他地域においても「テイクテン」の実践と「テイクテンリーダー」の育成を行う。また、学生主体のプロジェクトを立ち上げ、「いしのまきテイクテン」の持続的な発展を目指す。

プロジェクト名	乗馬を通じた障がい者と市民との地域共生・絆事業
団 体 名	東京障害者乗馬協会
実 践 概 要	<p>助成1年目は、障がい者とボランティアとが、障害の種別・年齢・性別等の区別なく協働して、定期的に障がい者乗馬会を開催し、障がい者の主体的なスポーツ活動を推進・普及させるとともに、障がい者も健常者も乗馬による心身への効果を生かし、互いに楽しみながら成長していく取り組みを行った。</p> <p>助成2年目は、馬に関する基礎知識等のリーフレットを作成、配布し、障がい者乗馬への理解促進を図るとともに馬術大会への参加者数の増加を目指す。</p>

<継続助成3年目>

プロジェクト名	トレイル・オリエンテーリング普及事業
団 体 名	特定非営利活動法人トレイル・オリエンテーリング協会
実 践 概 要	<p>助成1年目は、①障がい者スポーツ協会や身体障がい者団体等と連携して実施した体験会、②だれでも気軽に参加ができ、楽しんで貰ったトレイルOのつどい、③障がい者と健常者が競い合い、交流することによって、愛好者を増やしたトレイルO大会などでの成果を生かし、助成2年目は、継続して事業展開するとともに、新たに東北、信越地域での体験会、つどい、普及員養成講習会、大会などを開催し、全国にトレイル愛好者の増強に努めた。</p> <p>助成3年目は、東北の拠点における活動や近畿圏への普及活動を継続するとともに、全日本トレイルO選手権大会開催の支援を行い、2014年度には同団体として選手権大会を開催する。</p> <p style="text-align: right;">*O=オリエンテーリングの略</p>

プロジェクト名	スポーツ・健康づくり運動を通じた地域復興支援プロジェクトⅢ (復興支援特別助成)
団 体 名	公益財団法人健康・体力づくり事業財団
実 践 概 要	<p>助成1年目は、福島県南相馬市で、総合型地域スポーツクラブ(NPOはらまちクラブ)と健康運動指導士で、週1~2回、集合型運動教室「貯筋運動ステーション=お茶とおしゃべり かる〜い筋トレ」を行った。</p> <p>助成2年目は、ステーションまで来られない方々のために、公民館、仮設住宅等へ、月1~2回、出前ステーションを実施し、住民の健康・体力づくりに貢献しながら、コミュニティスポーツの地域の核となるクラブの復活に尽力した。</p> <p>助成3年目は、南相馬市だけではなく複数のクラブ・指導者が仮設住宅住民に対して出前の健康・体力づくりのプログラムを実施する。</p>

プロジェクト名	D oスポーツ! フロアホッケーでインクルージョン社会創出事業
団 体 名	長野県フロアホッケー連盟
実 践 概 要	<p>助成1年目は、事業の基盤強化を目的とした安全性確保の研究や体験会を実施した。</p> <p>助成2年目は、東日本大震災の被災者(小学生)が元気を取り戻せるようサマーキャンプを行い、また、改正障害者雇用促進法を見据え、企業内における障がい者と健常者のコミュニケーションづくりとして、フロアホッケーをツールとした穏やかな社会づくりを重点課題として推し進めた。</p> <p>助成3年目は、1年目、2年目の活動を充実させるとともに、身体障がい者や幼児などフロアホッケー対象者の拡充のための競技体系の研究と大会に出場できない個人プレーヤーのためのクラブチームの育成に取り組む。</p>

プロジェクト名	焼津フットサルクラブ『けろけろクラブ』
団 体 名	特定非営利活動法人生きる生きる
実 践 概 要	「けろけろクラブ」は、誰もが参加できるフットサルクラブとして、心身の障がいを抱える者、年齢、男女が分け隔てなく参加できることを特徴とする。 助成2年目は、県内全域に障がい者フットサルの文化が根付くよう働き掛け、「けろけろクラブ」のスタイルを焼津・中部地区から発信し、普及啓蒙して行けるよう活動した。 助成3年目は、在日外国人の活動への巻き込みを図るとともに、これまでのノウハウやプログラムを映像や本にまとめ普及活動を展開する。

プロジェクト名	上天草「元気発進！」プロジェクト
団 体 名	特定非営利活動法人ひとつづくりくまもとネット
実 践 概 要	助成1年目は、「健康教室」を参加者とともに上天草市の各地区へ出張し、健康・運動への関心を高めるとともに、地域交流や多世代間交流を行った。 助成2年目は、「元気リーダー」の養成と、SNSを活用した情報提供を行い、プロジェクトに関わる人々のコミュニティ拡大に努めた。 助成3年目は、「元気リーダー」を中心とした活動を展開すべく、「元気リーダー」の意識向上を図るとともに、市民交流型イベントプログラム等を開催する。

プロジェクト名	「ひきこもり」「不登校」「ニート」「障がい児・者」「高齢者」など日常的にスポーツの場から遠ざかっている市民と学生（中・高・大学生）・市民ボランティアのコラボレーションでトリプルバドミントンという町づくりにつなげるコミュニティスポーツ開発プロジェクト。
団 体 名	みんなでつくる学校とれぶりんか
実 践 概 要	助成1年目は、社会的にスポーツから疎外された状況にある市民の日常的な健康やスポーツや地域への関わりの実態をアンケートなどを通じて把握・分析を行った。 助成2年目は、1年目の取り組みを実践に生かすとともに、若いボランティアへの働き掛けを強化しながら、過去5年間で蓄えてきた「ふれあいバドミントン」と昨年の「トリプルバドミントン」創出の経験とノウハウを伝え、次世代リーダー育成に努めた。 助成3年目は、調査・研究のモデルケースと実践のモデルプランの創出を目的とし、障がい者・高齢者等の生活実態の把握に関するアンケート調査と、実践を通じた多角的な考察を行う。

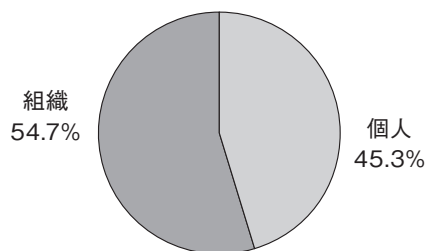
スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム
2013年度 調査・研究助成(新規) 応募状況

○都道府県別にみた応募状況

都道府県	都道府県	団体数	割合	
北海道	北海道	0	0.0%	
東北	青森	7	9.3%	
	岩手			3
	宮城			4
	秋田			
	山形			
関東	福島	32	42.7%	
	茨城			5
	栃木			1
	群馬			
	埼玉			3
	千葉			2
	東京			12
甲信越	神奈川	9		
	山梨	2	2.7%	
	新潟			2
長野				
北陸	富山	3	4.0%	
	石川			2
	福井			
東海	静岡	4	5.3%	
	愛知			3
	岐阜			
	三重			
近畿	滋賀	19	25.3%	
	京都			5
	大阪			5
	兵庫			4
	奈良			3
	和歌山			1
中国	鳥取	3	4.0%	
	島根			
	岡山			
	広島			1
四国	山口	1	1.3%	
	香川			
	徳島			
	愛媛			1
九州	高知	3	4.0%	
	福岡			1
	佐賀			
	長崎			
	熊本			1
	大分			1
宮崎	鹿児島			
沖縄	沖縄	1	1.3%	
		75	75	100%

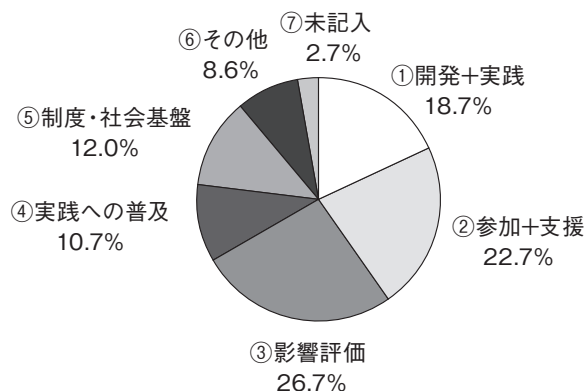
○応募者別(個人/組織)の応募件数と割合

種別	件数	割合
個人	34	45.3%
組織	41	54.7%
合計	75	100%



○調査・研究課題別の応募件数と割合

種別	件数	割合
①開発+実践	14	18.7%
②参加+支援	17	22.7%
③影響評価	20	26.7%
④実践への普及	8	10.7%
⑤制度・社会基盤	9	12.0%
⑥その他	5	6.7%
⑦未記入	2	2.7%
合計	75	100%



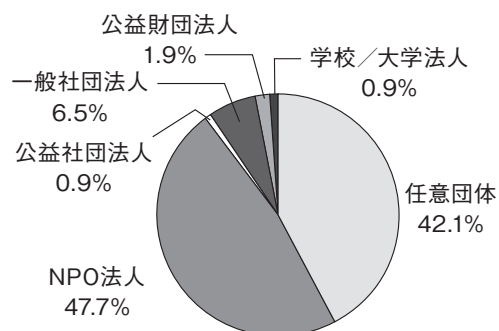
スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム
2013年度 実践助成(新規) 応募状況

○都道府県別にみた応募状況

都道府県	都道府県	団体数	割合	
北海道	北海道	9	9	8.4%
東北	青森		6	5.6%
	岩手			
	宮城	4		
	秋田	1		
	山形			
	福島	1		
関東	茨城		35	32.7%
	栃木	2		
	群馬	1		
	埼玉	6		
	千葉	1		
	東京	19		
	神奈川	6		
甲信越	山梨		3	2.8%
	新潟	1		
	長野	2		
北陸	富山		1	0.9%
	石川			
	福井	1		
東海	静岡		12	11.2%
	愛知	4		
	岐阜	6		
	三重	2		
近畿	滋賀		15	14.0%
	京都	1		
	大阪	7		
	兵庫	6		
	奈良			
	和歌山	1		
中国	鳥取		13	12.1%
	島根	3		
	岡山	4		
	広島	4		
	山口	2		
四国	香川	1	4	3.7%
	徳島			
	愛媛	1		
	高知	2		
九州	福岡	2	6	5.6%
	佐賀	1		
	長崎	1		
	熊本			
	大分	1		
	宮崎			
	鹿児島	1		
沖縄	沖縄	3	3	2.8%
		107	107	100%

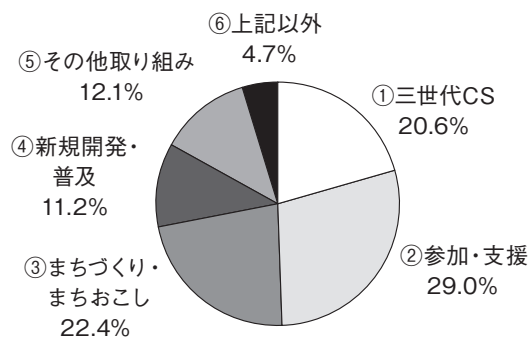
○応募者別(法人形態別)の応募件数と割合

種別	件数	割合
任意団体	45	42.1%
NPO法人	51	47.7%
公益社団法人	1	0.9%
一般社団法人	7	6.5%
公益財団法人	2	1.9%
学校/大学法人	1	0.9%
合計	107	100%



○実践課題別の応募件数と割合

種別	件数	割合
①三世代CS	22	20.6%
②参加・支援	31	29.0%
③まちづくり・まちおこし	24	22.4%
④新規開発・普及	12	11.2%
⑤その他取り組み	13	12.1%
⑥上記以外	5	4.7%
合計	107	100%



財団概要

名 称	公益財団法人 住友生命健康財団
所 在 地	〒540-0001 大阪市中央区城見1丁目4番70号 TEL(06)6947-3140 FAX(06)6947-3142
設立年月	1985年(昭和60年)6月 2011年(平成23年)4月1日公益財団法人へ移行
理 事 長	須崎 晃一

設立の趣旨

当財団は、住友生命創立60周年記念事業の一環として設立されました。広く国民に心身の健康に関する啓発活動を行い、あわせて地域の健康増進に貢献する活動を推進することにより、国民の心身の健康と健やかな生活の増進を図り、もって社会公共の福祉に貢献することを目的としています。

◆ホームページでイベント情報などをお知らせしております。

住友生命健康財団

検索



<http://www.sumitomolife.co.jp/csr/kouken/kenkou/kenkou.html>